

精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名：宮崎大学医学部附属病院精神科領域専門研修プログラム

■ プログラム担当者氏名：石田 康

住 所：〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原 5200

電話番号：0985-85-2969

F A X：0985-85-5475

E - m a i l：ishiday@med.miyazaki-u.ac.jp

■ 専攻医の募集人数：(18) 人

■ 専攻医の募集時期：2017年7月1日～2017年8月31日

■ 応募方法：

履歴書、医師免許証(コピー)、臨床研修修了登録証(コピー)あるいは修了見込証明書、健康診断書を下記宛先に、郵送にて提出すること。封筒に「専攻医応募書類在中」と記載する。

宛先：〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原 5200
宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野

TEL：0985-85-2969

FAX：0985-85-5475

担当者： 船橋 英樹 (医局長)

◆提出期限◆

2017年8月31日 必着

■ 採用判定方法：

科長・医局長が提出書類記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念(全プログラム共通項目)

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼

にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

宮崎大学医学部は宮崎県清武町に1974年に設立された宮崎医科大学を前身とする。精神医学教室（臨床神経科学講座精神医学分野）は1977年に開講した比較的歴史の浅い教室だが、開講以来自由闊達な気風を大切に、臨床、研究、教育に取り組んでいる。

基幹施設となる宮崎大学医学部の精神科は、36床のベッドを有し、閉鎖病棟、隔離室、観察室を有しており、救急部と連携しての精神科救急、身体合併症、難治性精神疾患、器質症状性精神障害、緩和ケアなどに対応している。専攻医は入院患者の主治医となり、教員の指導を受けながら、看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し身体的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気けいれん療法などの治療を柔軟に組み合わせた治療を行っている。研修の過程では、ほとんどの精神疾患の診断と治療について、基礎的な知識を身につけることが可能である。

また、宮崎県立宮崎病院精神医療センターを連携施設としており、精神科救急やコンサルテーション・リエゾン精神医学、児童思春期精神医学、司法精神医学、緩和ケアを学ぶことができる。さらに、児童思春期の専門医療機関として宮崎東病院児童精神科、認知症疾患医療センター（大悟病院・協和病院・野崎病院）、単科精神科病院（井上病院・高宮病院・宮崎若久病院・内村病院・国見ヶ丘病院・県南病院・鮫島病院・都城新生病院・田中病院・谷口病院・永田病院・藤元病院・吉田病院）とも連携している。専攻医はこれらの施設をローテートしながら研鑽を積み、臨床精神科医としての実力を向上させつつ、専門医を取得することが可能である。毎週月曜日に定期的に症例検討会を開催しており、主に入院患者について、治療や問題点などを検討し、診療に反映させている。

県内の関連病院に複数の医師が出向しており、大学で毎週金曜日に定期的に行われる研究発表・抄読会では、出向中の医師を含む在籍医局員が集まり、症例報告や各自の研究報告を行い、臨床、研究、教育に励んでいる。精神科専門医を目指して臨床経験を積みながらも、本人の希望を勘案し、大学院に進学し博士号の取得も可能である。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 49 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	4590	2238
F1	780	498
F2	3715	2322
F3	4484	996
F4 F50	3051	412
F4 F7 F8 F9 F50	2114	322
F6	127	58
その他	592	209

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：宮崎大学医学部附属病院精神科
- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：鮫島 浩
- ・プログラム統括責任者氏名：石田 康
- ・指導責任者氏名：石田 康
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 36 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	48	32
F1	5	6

F2	189	53
F3	234	51
F4 F50	182	39
F4 F7 F8 F9 F50	21	5
F6	14	9
その他	13	21

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 632 床を有する大規模な病院であり、精神科も 36 床の病棟を有している。高度専門医療機関として、主に難治性の症例を中心に統合失調症、気分障害、神経症性障害、認知症などの治療にあたっている。また精神科救急、思春期症例、身体合併症治療、コンサルテーション・リエゾンなど精神科臨床を幅広く経験できることも特徴である。修正型電気けいれん療法やクロザピンの使用も可能であり、難治性症例にあらゆる角度からアプローチしている。教員による細やかな指導を通じて、精神科医としての論理的考察の基礎と精神保健福祉法の理解を深め、他科・多職種との協力体制を経験するのにふさわしい施設であると考えている。

B 研修連携施設

① 施設名：宮崎県立宮崎病院 精神医療センター

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：菊池 郁夫
- ・指導責任者氏名：河野 次郎
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 42 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	83	42
F1	17	22
F2	171	67

F3	131	57
F4 F50	159	28
F4 F7 F8 F9 F50	269	53
F6	11	4
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は 653 床を有する総合病院であり、42 床の精神科病棟では精神科救急・身体合併症入院料算定を取得している。

精神科救急や合併症を有する精神疾患を中心に、司法精神医学、リエゾン、緩和ケア領域、児童思春期などの症例を含む多彩な精神疾患の入院・外来治療の実践経験を積むことが可能である。

② 施設名：宮崎東病院 児童精神科

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：比嘉 利信
- ・指導責任者氏名：赤松 馨
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	0
F1	0	0
F2	2	7
F3	11	4
F4 F50	61	33
F4 F7 F8 F9 F50	225	10
F6	0	1

その他	0	0
-----	---	---

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は300床を有する総合病院であり、児童精神科外来を開設し、現在は小児科と連携して入院治療を行っている。2017年4月には30床の児童精神科病棟を開設予定である。不登校や情緒行動障害など児童思春期の精神科診断および治療を行なっている。広汎性発達障害・注意欠陥／多動性障害などの発達障害、強迫性障害・不安性障害・解離／転換性障害などの神経症性障害、統合失調症、気分障害、睡眠障害、チック障害などを治療対象としている。近隣に特別支援学校もあり、児童思春期疾患を中心に多彩な疾患、症例を経験することが可能である。

③ 施設名：井上病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：井上 雅文
- ・指導責任者氏名：井上 雅文
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 186 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	79	60
F1	25	39
F2	41	86
F3	92	62
F4 F50	113	33
F4 F7 F8 F9 F50	152	51
F6	3	2
その他	0	7

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は 186 床を有する単科の精神科病院である。精神科急性期治療病棟 46 床、認知症治療病棟 40 床、精神療養病棟 100 床を有し、急性期から慢性期、認知症まで精神科全般の幅広い入院及び外来治療を行っている。また、アルコールリハビリテーションプログラムを多職種連携により実施しており、年間約 30 ケースの受入実績もある。その他、多数のコメディカルスタッフを各部署に配置し、積極的に地域移行及び地域定着にも取り組み、幅広く実践経験を積むことができる病院である。

④ 施設名：協和病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名： 二宮 嘉正
- ・指導責任者氏名： 二宮 嘉正
- ・指導医人数：(6) 人
- ・精神科病床数：(307) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	849	240
F1	19	15
F2	237	179
F3	149	33
F4 F50	87	4
F4 F7 F8 F9 F50	126	8
F6	3	1
その他		

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は精神科単科病院（307 床）、介護老人保健施設（76 床）、認知症疾患医療センター、地域包括支援センター、宿泊型自立訓練施設、地域活動支援センター等を有し、認知症を中心とした地域密着型の医療だけでなく介護も提供している。医師とコメディカルが連携し、認知症を中心とした地域密着の医療・介護

やアウトリーチの研修が行える。また、宮崎県より地元医師会を經由してうつ病自殺対策事業の委託を受けており、うつ病に関しても早期発見・治療はもちろんのこと、発症予防に関する活動を行っている。

⑤ 施設名：高宮病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：高宮 眞樹
- ・指導責任者氏名：渡邊 信夫
- ・指導医人数：（ 7 ）人
- ・精神科病床数：（ 231 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	55	30
F1	32	19
F2	45	113
F3	196	105
F4 F50	254	55
F4 F7 F8 F9 F50	19	15
F6	8	4
・ その他	0	0

施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は常勤の精神科医師 6 名（精神保健指定医 6 名）と内科医 1 名、非常勤の精神科医師 3 名（精神保健指定医 3 名）を擁し、精神科急性期治療病棟では 16：1 の医師配置加算の届出をしており、統合失調症、気分障害、認知症、パニック障害、適応障害、物質依存等 様々な疾患に、質の高い医療を提供している。精神科急性期治療から回復期、デイ・ケア、訪問看護までの治療の流れに沿った幅広い知識を習得でき、精神科医としての知識と技能の向上と専門医取得に向けた経験を積むことができる。

⑥ 施設名：大悟病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：井上 輝彦
- ・指導責任者氏名：三山 吉夫
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(311) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	641	310
F1	259	180
F2	24	15
F3	64	7
F4 F50	4	3
F4 F7 F8 F9 F50	11	2
F6	4	18
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は311床を有する病院であり、認知症疾患医療センターの指定を受けている。また、アルコール依存症専門病棟も有している。特に、243床の認知症治療病棟では身体合併症にも対応し、認知症に特化した専門性の高い治療経験を積むことが可能である。

⑦ 施設名：野崎病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：野崎 正太郎
- ・指導責任者氏名：川添 哲志
- ・指導医人数：(4) 人

- ・精神科病床数：（ 400 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	431	145
F1	16	12
F2	55	27
F3	160	53
F4 F50	80	12
F4 F7 F8 F9 F50	99	15
F6	6	1
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は精神 400 床、療養 60 床の精神科病院である。認知症疾患医療センターの指定を県より受けており、認知症の鑑別診断や中核症状、周辺症状（BPSD）の治療などを数多く経験することができる他、統合失調症、気分障害など様々な症例を経験できる。入院や外来治療の他、デイ・ケア、訪問看護等による地域生活支援にも力を入れている。内科、放射線科、リハビリテーション科、歯科などの他科医師や理学療法士・言語聴覚士も在籍しており、身体合併症管理、画像診断、摂食機能療法など幅広く経験することができる。

⑧ 施設名：宮崎若久病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：倉山 茂樹
- ・指導責任者氏名：倉山 茂樹
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 192 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	51	43
F1	54	10
F2	105	98
F3	80	39
F4 F50	63	19
F4 F7 F8 F9 F50	20	11
F6	2	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は 192 床の単科精神科病院であり、アルコール依存症の入院による ARP（アルコール依存症・リハビリテーション・プログラム）を習得することができる。また、医療観察法の指定通院医療機関でもあり、保護観察所や保健所など外部の専門機関と連携して、退院後の医療観察法の対象者を支える医療を学べる。さらに精神科のない病院や施設と連携し、入院患者や入所者の種々の精神症状に、積極的に往診して治療にあたっている。NTT 等の企業における精神科産業医としての役割も学ぶことができる。

⑨ 施設名： 内村病院

- ・施設形態： 民間単科精神科病院
- ・院長名： 内村 大介
- ・指導責任者氏名： 内村 大介
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 261 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	301	83
F1	24	20

F2	225	155
F3	409	41
F4 F50	240	15
F4 F7 F8 F9 F50	12	29
F6	9	1
その他		

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は261床を有する単科の精神科病院である。精神科急性期治療病棟41床、精神一般病棟40床、精神療養病棟180床を有し、急性期から慢性期に至る精神科全般に渡る入院および外来治療を行っている。広範囲な医療圏における数少ない精神科病院として、統合失調症、気分障害、認知症をはじめとする様々な精神疾患に対する質の高い医療を提供するとともに、デイケアや訪問看護等も積極的に行い地域密着型の医療を行っている。

⑩ 施設名： 国見ヶ丘病院

- ・施設形態： 民間単科精神科病院
- ・院長名： 植松 昌俊
- ・指導責任者氏名： 植松 昌俊
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 265 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	222	179
F1	20	13
F2	126	95
F3	99	23
F4 F50	71	11
F4 F7 F8 F9 F50	0	0

F6	0	0
その他	0	6

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は、宮崎県北部の高千穂町の高台に位置する 265 床の単科の精神科病院である。急性期から慢性期、認知症まで精神科全般の幅広い入院及び外来治療を行っている。また、他職種が連携して、デイ・ケア、デイ・ナイト・ケア、訪問看護等による地域生活支援も行っており、当地、西臼杵郡においては切れ目ない精神科医療を提供している。これらの環境下で研修を行うことにより、精神科医として、知識と技能の向上と専門医取得に向けた経験を積むことができる。

⑪ 施設名： 県南病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：藤元 秀一郎
- ・指導責任者氏名：藤元 ますみ
- ・指導医人数：（ 2 ） 人
- ・精神科病床数：（ 364 ） 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	339	283
F1	32	22
F2	129	140
F3	212	40
F4 F50	201	20
F4 F7 F8 F9 F50	15	10
F6	30	5
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は精神科病床 364 床、療養病床（医療保険・介護保険対応）70 床を有

する精神病院である。精神科グループホーム、地域生活支援センター、居宅介護支援事業所、有料老人ホームを有し、医療、介護、福祉のトータルケアを提供している。また、医療観察法の指定通院医療機関でもある。統合失調症、気分障害、器質性精神障害、認知症、神経症性障害、発達障害、身体合併症をはじめとして、幅広い症例の研修が可能であり、入院治療はもちろんのこと精神科デイ・ケア、重度認知症デイ・ケア、精神科訪問看護など地域生活支援にも力を注いでいる。全人的治療の理解を深めながら専門医取得に向けた研鑽をはかることができる病院である。

⑫ 施設名：鮫島病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：鮫島 哲郎
- ・指導責任者氏名：鮫島 哲郎
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 240 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	144	93
F1	31	33
F2	118	148
F3	226	42
F4 F50	207	24
F4 F7 F8 F9 F50	68	13
F6	1	2
その他	0	23

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は精神科病棟 240 床を有する精神科病院であり、統合失調症、物質依存症、気分障害、認知症、2名の常勤内科医との協力体制による身体合併症治療等々精神科全般の幅広い疾患に対応した質の高い入院及び外来治療を行っている

る。精神科デイ・ケアや訪問看護、患者の地域移行・定着のための関係機関との連携にも積極的に取り組んでおり、精神科急性期治療から回復期、退院後のケアまで幅広い知識の修得と実践経験ができる病院である。

⑬ 施設名：医療法人一誠会 都城新生病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：河野 一成
- ・指導責任者氏名： 河野 仁彦
- ・指導医人数：(4) 人
- ・精神科病床数：(390) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	35	96
F1	7	7
F2	243	236
F3	390	61
F4 F50	28	0
F4 F7 F8 F9 F50	352	41
F6	8	3
その他	154	5

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当病院は390床を有する精神科病院である。療養病棟があり患者内訳としてはF2統合失調症圏の患者数が多い特徴がある。統合失調症に対する薬物治療に力を入れており、治療抵抗性統合失調症に対する治療薬であるクロザピン治療を行える体制を構築しているため同治療を経験することが可能である。また、新たに児童思春期外来を開設し、日本児童青年精神医学会専門医も常勤しているため児童思春期疾患に対する診療経験が積めるよう体制を構築している。

⑭ 施設名：田中病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：田中 洋
- ・指導責任者氏名：柚留木 隆憲
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 203 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	150	158
F1	130	27
F2	520	123
F3	210	42
F4 F50	160	17
F4 F7 F8 F9 F50	410	15
F6	6	4
その他		3

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は、精神 203 床、療養 50 床の精神科単科病院である。精神科急性期治療病棟、認知症疾患治療病棟、精神科療養病棟があり、急性期から慢性期、認知症まで精神科全般の幅広い入院及び外来加療を行なっている。また、宿泊型自立訓練施設、共同生活援助（グループホーム）、相談支援事業所、精神科デイ・ナイト・ケア、訪問看護ステーション、高齢者グループホーム等、関連施設も充実しており、質の高い医療を提供している。

⑮ 施設名：谷口病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：谷口 浩
- ・指導責任者氏名：谷口 浩
- ・指導医人数：（ 4 ）人

- ・精神科病床数：（ 310 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	406	246
F1	41	22
F2	379	201
F3	517	192
F4 F50	235	72
F4 F7 F8 F9 F50	10	0
F6	5	2
その他	230	138

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、310床を有する精神科単科病院である。発達障害、気分障害、不安障害圏、統合失調症圏、認知症、アルコール・薬物障害圏など広範囲に及ぶ精神疾患患者を受け入れてきた実績がある。児童思春期症例対応や精神科救急事例対応などにも積極的に対応し、専門医、指定医を目指す若い精神科医を積極的に受け入れ、育成してきた。また、利用者の社会生活を支えるため、6つの自立型生活支援住居も運営している。さらに、利用者の地域移行を推進するため、訪問看護も精力的に遂行するなど、他職種連携による精神保健福祉への参画を積極的に進めている。

⑩ 施設名：医療法人恵心会永田病院

- ・施設形態： 民間単科精神科病院
- ・院長名： 有田一信
- ・指導責任者氏名：有田一信
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 304 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	39	23
F1	7	7
F2	269	241
F3	322	44
F4 F50	199	10
F4 F7 F8 F9 F50	102	22
F6	6	0
その他	72	4

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は宮崎県内において最初期に設立された単科精神科病院であり、地域での認知度は高い。嘱託医として関わっている施設等は複数あり、また県境に立地しているため隣県の鹿児島県からの利用も多い。様々な症例を経験することが可能であり、より実践的な臨床精神科医としての研修を積むことが出来る。

⑰ 施設名： 藤元病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：竹内 康三
- ・指導責任者氏名：藤元 登四郎
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 414 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	381	99
F1	11	14
F2	582	278

F3	722	76
F4 F50	378	5
F4 F7 F8 F9 F50	107	20
F6	7	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は、414床を有する単科の精神科病院であり、先進医療機器を設置している総合病院も併設している。うつ病などの感情障害から不登校、適応障害、統合失調症、神経症、認知症など、疾患・年齢層ともに幅広い症例の経験を積むことができる。また、医療観察法の指定医通院医療機関でもあり、外部の公的専門機関との連携や外来・デイ・ケア・訪問看護等地域における精神科医療の役割も学ぶことができる。

⑱ 施設名：吉田病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：吉田 建世
- ・指導責任者氏名：吉田 建世
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 307 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	336	76
F1	50	30
F2	255	60
F3	260	24
F4 F50	329	12
F4 F7 F8 F9 F50	96	2

F6	4	1
その他	123	2

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は 307 床（精神科急性期治療病棟 42 床・精神科一般病棟 54 床・精神療養病棟 166 床・認知症治療病棟 45 床）の精神科病院です。外来部門として、精神科訪問看護・精神科デイ・ケア・重度認知症デイ・ケア、関連施設として、宿泊型自立訓練施設・グループホーム・延岡市地域活動支援センターを有し、急性期治療から回復期、社会復帰支援までトータルケアを提供しています。また、特に認知症治療に力を入れており、もの忘れ相談や MRI や SPECT を導入し、早期診断・早期治療を目指しております。

3. 研修プログラム

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。

- 1.患者及び家族との面接
- 2.疾患概念の病態の理解
- 3.診断と治療計画
- 4.補助検査法
- 5.薬物・身体療法
- 6.精神療法
- 7.心理社会的療法など
- 8.精神科救急
- 9.コンサルテーション・リエゾン精神医学
- 10.法と精神医学
- 11.災害精神医学
- 12.医の倫理
- 13.安全管理

なお、留学や妊娠・出産・育児や介護などで、研修を中断せざるを得ない場合は、中断した期間分のプログラムの履修が可能である。

1) 年次到達目標

1 年目：基幹病院または連携病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、コンサルテーション・リエゾン精神医学を経験する。とくに面接によ

って情報を抽出し、診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。症例カンファレンス、セミナーに参加し、学会や研究会等で発表する。

2年目：基幹病院または連携病院で、指導医の指導を受けつつ面接手技を学び、診断と治療計画の能力を充実させる。薬物療法の知識を深め、精神療法の基本的考え方を学ぶ。また、論文執筆（症例報告など）の指導を受ける。

3年目：指導医から自立して診療できるようにする。基幹病院または連携病院で、各種精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション、地域精神医療等を学ぶ。学会での発表、論文の執筆を行う。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

3) 個別項目について

①倫理性・社会性

他科の医師やコメディカルスタッフとともに研修会が実施される。コンサルテーション・リエゾンを通して身体科との連携を持つことによって、医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

②学問的姿勢

研修期間に経験した症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学術誌などへ投稿する。

③コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解を到達目標とする。さらに精神科診断・面接、精神療法、薬物療法、コンサルテーション・リエゾン精神医学といった精神科医特有の技能の獲得を目指す。

④学術活動（学会発表、論文の執筆等）

臨床研究、基礎研究に従事しその成果を国内外の学会や研究会で発表し、論文として発表する。

⑤自己学習

臨床での経験や指導医に学んだことなどを自己で振り返り、書籍や論文などを読み、自主学習する。

4) ローテーションモデル

原則として1年目に基幹病院で研修し、精神科医としての基本的な知識を身につける。2～3年目には基幹病院または連携病院で研修し、身体合併症治療、難治・急性期症例、児童症例、認知症症例、触法患者等を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、身体的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。

1年目	基幹病院 (1年間)	
2年目	基幹病院 (6か月)	連携病院 (6か月)
3年目	基幹病院 (8か月)	連携病院 (4か月)

5) 研修の週間・年間計画

週間計画については下記を参照。年間計画については「専門研修プログラム整備基準項目 5 別紙」に準拠する。

	8:30	9:30	10:30	11:30	12:30	13:30	14:30	15:30	16:30	17:30
月	オリエンテーション	入院診療	回診（教授）				病棟行事	入院診療	指導医による症例指導	症例検討会
火	入院診療	初診/予診	外来診療の陪席				病棟行事	入院診療	コンサルテーション・リエゾン診療指導	
水	入院診療	初診/予診	外来診療の陪席				病棟行事	入院診療	精神疾患に関する講義	
木	入院診療	初診/予診	外来診療の陪席				病棟行事	入院診療	緩和ケアカンファレンス	
金	入院診療	初診/予診	外来診療の陪席			抄読会・研究発表会	入院診療	指導医による症例指導	入院診療	

4. プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

- 委員長 医師 石田 康
- 医師：武田 龍一郎
- 医師：直野 慶子

- 医師：船橋 英樹
- 心理士・精神保健福祉士：松尾 寿栄
- 精神保健福祉士：永澤 美樹
- 医師：河野 次郎
- 医師：赤松 馨
- 医師：米良 誠剛
- 医師：三山 吉夫
- 医師：二宮 嘉正
- 医師：渡邊 信夫
- 医師：川添 哲志
- 医師：倉山 茂樹
- 医師：内村 大介
- 医師：植松 昌俊
- 医師：藤元 ますみ
- 医師：鮫島 哲郎
- 医師：河野 仁彦
- 医師：柚留木 隆憲
- 医師：谷口 浩
- 医師：石塚 雄太
- 医師：藤元 登四郎
- 医師：吉田 建世

- ・プログラム統括責任者

石田 康

- ・連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

宮崎大学医学部附属病院：石田 康

宮崎県立宮崎病院精神医療センター：河野 次郎

宮崎東病院児童精神科：赤松 馨

井上病院：井上 雅文

大悟病院：三山 吉夫

協和病院：二宮 嘉正

高宮病院：渡邊 信夫

野崎病院：川添 哲志

宮崎若久病院：倉山 茂樹

内村病院：内村 大介
国見ヶ丘病院：植松 昌俊
県南病院：藤元 ますみ
鮫島病院：鮫島 哲郎
都城新生病院：河野 仁彦
田中病院：柚留木 隆憲
谷口病院：谷口 浩
永田病院：石塚 雄太
藤元病院：藤元 登四郎
吉田病院：吉田 建世

2) 評価時期と評価方法

- ・3 か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回行う。

宮崎大学医学部附属病院にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル(別紙)
- 指導医マニュアル(別紙)

・専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価を行い記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価を行うこと。研修を終了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

・指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価を行い、指導医も形成的評価を行い記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価を行い、評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックを行い記録し、翌年度の研修に役立てる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

各施設の労務管理基準に準拠する。

2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) FDの計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。